

さあ、直方の魅力にふれよう！

≡のおがタッチ≡





住みやすさに タッチ

市のカタチは
「**ハートのカタチ**」によくにています。



SDGs 未来都市に選定
脱炭素先行地域に選定
地方版IoT推進ラボに選定

直方も地球もずっと続くように

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs未来都市 のおがた

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際目標です。持続可能な世界を実現するため、17のゴール(目標)を掲げています。直方市では令和4年5月に内閣府より「SDGs未来都市」に選定され持続可能なまちづくりを進めています。その取り組みとして「のおがたSDGsフェスタ」の開催、地域の課題に取り組む主体をつなぐ「SDGs推進パートナー制度」(令和6年2月現在:52団体)、市内の4つの高校生が環境問題を考える「環境サミット」などを行っています。今後もSDGsに掲げる17のゴール(目標)の達成に向けて市民のみなさんと協力し取り組んでいきます。



「ワンヘルス」推進の取組

ワンヘルスとは、人と動物の健康と環境の健全性は一つであり、これらを一体的に守ろうという考え方です。直方市は、県内で2番目のワンヘルス推進宣言、ワンヘルス啓発施設として福智山ろく花園の認定など、積極的に推進しています。



Living Environment 生活環境にタッチ

自然

直方市は、福智山系の深い緑と市を2つに分けて流れる遠賀川水系の豊かな自然が魅力です。春の河川敷にはチューリップや桜、菜の花が咲き誇り、体中に春を感じながら散策やサイクリングができます。夏には、福智山登山、竜王峡での水遊び、河川敷での花火大会、秋は、紅葉やスキを愛で、冬には福智山の雪景色、コウノトリとの出会いも楽しめます。



ショッピング

大型複合商業施設のほか、スーパーや家電品店、ホームセンターやディスカウントショップ、直売所などが点在し、買い物に困りません。また、新たな複合商業施設、直売所もオープンしました。



防災連携協定の締結



災害が発生した際に、事業者と協力して災害に対処していく取組で、迅速な物資の提供など、いち早く市民に提供することが目的です。令和5年度には、(株)カインズや(株)アクティオなど、複数の協定を締結しています。



災害対応



LINEなどで、迅速に情報の配信を行っています。また、避難所の場所や開設状況、利用人数などを管理できる地図アプリを作成し、市職員間で共有しています。今後は本アプリの情報を市民の皆さんにも共有できるように取組を進めています。

避難所アイコンをタッチ



汚泥再生処理センター ●PPA※による太陽光発電

令和4年2月に、2050年までにCO2排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、脱炭素社会に向けた取組を行っています。その一環として、令和5年8月31日より、直方市汚泥再生処理センター「クリーンHitzのおがた」の屋上に344枚の太陽光パネルを設置し、年間191,306kWを発電することで、センターで消費する電力の約15%をカバーしています。

※PPA: 発電設備を民間事業者が設置し、発電した電気を設置施設に供給するもの



資源リサイクル推進

【資源リサイクル回収】

登録制で月に1度回収ボックスを設置し、回収を行っています。

(空き缶、ビン・ペットボトル・その他プラ・台所用小金属)

【資源拠点回収】 (13品目19分別)

市の回収拠点へ自分で持って行くことができます。品目は、かん、びん、ペットボトル、その他プラ、台所用小金属、古紙、雑古紙、紙製容器包装、紙パック、廃水銀(蛍光管・乾電池・水銀を使用した温度計など)、廃食用油、小型電子機器、古着です。集まった資源物はリサイクルし、再商品化されます。

【常設資源回収場所】 (4品目7分別)

自治区公民館に回収容器を設置し、誰でも使える常設資源回収場所として利用することができます。品目は、アルミ缶、スチール缶、びん、ペットボトル、その他プラです。



アクセスの良さ



福岡・北九州の両政令市の間にあり、高速道路や鉄道等のアクセスに恵まれ、利便性が高いことが特徴です。現在はJR直方駅前からの出橋にかけての街路灯設置と歩道のバリアフリー化に向けて取組を進めています。



若者の市内定着に向けた支援

「地域で育てた人材に、地域で定着・活躍してもらうための定住支援」として、奨学金の返還支援を行っています。大学・高校などに進学し、卒業後、直方市に住み・働いている方に、一人あたり年間最大15万円、最長3年間の支援を行います。また、中古住宅の購入や解体後の新築建築に対し、100~150万円の補助金制度を設けるなど、市外から移住しやすい仕組みづくりに取り組んでいます。



DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

くらしや産業、行政のDXを推進しています。粗大ごみの回収の受付など、270種類にわたる行政手続きのオンライン化やキャッシュレス決済を導入するなど、行政サービスの質の向上を目指した取組を進めています。また、市役所の内部業務においても、電子決裁の導入や押印廃止、ペーパーレス化など、業務効率化の取組を推進しています。こうした取組が認められ、「全国自治体DX推進度ランキング2023」では、全国で23位(福岡県内1位)に選ばれました。令和5年5月には、自治体第1号となる「ノーコード宣言シティ」となり、市役所全体でノーコードツール(誰でも簡単にWebサービスやアプリの開発ができるツール)によるデジタル活用の取組を進めています。





子育て 健康長寿に タッチ

幼児教育のための絵本配布事業

子どもが絵本の楽しさを発見するきっかけをつくり、自発的な読書習慣を形成することを目的として満3歳児(年少児)を対象に絵本をプレゼントしています。



Parenting

子育て環境にタッチ



子育て支援センター(ここっちゃん)

●子育て広場 ●一時預かり施設おひさま



子育て広場は、就学前の児童及び保護者、妊娠中の方を対象に、親子のふれあいや、子どもたちの交流、情報交換の場となっており、子育てに関する不安や相談も受け付けています。コミュニティのおがたで出張広場を開催することもあり、開催日時は市のホームページやほのほのだよ(センターだよ)で確認できます。



直方中央公園

子どもから高齢者までが気軽に楽しめる園内には、大型複合遊具や乳幼児用遊具、健康遊具を設置。四季を身近に感じられるよう池や森を活かした自然散策遊歩道もあります。遊歩道もトイレもバリアフリー対応です。



病児保育事業

入院の必要がなく病気の回復期にあつて、集団保育が困難であり、保護者が仕事などの理由により、家庭で保育できない児童を一時的にお預かりすることができます。

[預かり場所]

- ・鞍手乳児院(鞍手町)
- ・あざかみこどもクリニック



多子世帯保育料無償化事業

多子世帯が子育てしやすい環境を充実させるため、市独自で保育料の無償化を行っており、小学校就学前の子どもが2人以上いる場合、2番目の子は保育園・認定こども園の保育料が無料になります。また、保育の必要性が確認出来た場合は幼稚園についても無料の対象となります。



こどもの才能の芽を育む事業



音楽などの文化芸術に関する高い知識と技術を有する専門家が、子どもたちに、普段の授業の中では得られない様々な体験や創作活動を行うことにより、子どもたちの興味や関心の幅を広げ、感性を養う機会を提供するとともに、子どもたちの無限の可能性を応援することを目的としています。具体的には、小中学生向けの楽器や演劇、カメラなどといった文化芸術に関する様々な体験事業や、プロの音楽家が小中学校へ出向いて行う合唱指導、プロの演奏家が市内幼稚園に出向いて演奏会を開催しています。



アントレプレナーシップ教育

九州大学、直轄ビジネス支援センターと連携し、小学校児童のキャリア教育の一環として、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育を行っています。一連のビジネスプロセスを体験することで、アントレプレナーに必須の「社会を生き抜く力」を養うことを目的としています。



中学校の全員給食

令和4年2学期から中学校の全員給食を始めました。成長期である生徒のため、栄養バランスの取れた食事の摂取を目的としています。また、全員で同じ給食を食べることで、食事の喜びや楽しさを共有し人間関係形成能力の育成につなげます。



オンライン英会話

令和3年度から、小学校6年生を対象とした海外の講師によるオンライン英会話を年3回行っています。生の英会話を体験することで、児童が英語に興味を持ってもらえるよう効果的に行っていきます。



プログラミング教育



直轄広域連携事業として、市内企業や九州大学のプログラミングサークルと連携した「プログラミング教室」を行っています。学校教育以外の場で、デジタル技術に触れる機会を創出し、将来の進路や仕事選びの選択肢を増やすきっかけづくりとなることを目的に取り組んでいます。



産後ケア

出産後、授乳がうまくいかない、赤ちゃんのお世話の仕方がわからない、手伝ってくれる人がいなくて不安など、育児などの支援が必要な方を対象に、産後ケア事業を実施しています。「産後ショートステイ(宿泊)」と「産後デイケア(日帰り)」があり、助産師などで助産師のケアを受ける事ができます。





地域介護予防活動支援事業

市民の皆さんが住み慣れた地域でできるだけ長く自分らしい暮らしが続けられるよう、自主活動団体の支援(プロジェクトの貸与など)を行っています。各団体では、高齢者の健康を助ける持久性・柔軟性・筋力・バランスをつけるための、椅子に座って行う「いきいき百歳体操」、食べる力や飲み込む力をつけるための体操「かみかみ百歳体操」などを、週に1回以上実施しています。



保健福祉センター



本施設は、生涯を通じての健康づくりや交流の場の提供、子育て、児童・生徒、障がい者、高齢者に関わるサービスを複合的に提供する施設を目指し、市内に分散していた機能を一カ所に集約します。右記の5つの機能により、市民の保健福祉の拠点として運用していく予定です。中央公民館と同じ敷地内に建設し、令和7年度末のオープンに向けて事業を進めています。

- ①健康づくりの機能(各種検診、教室、相談など)
- ②福祉の機能(直方市社会福祉協議会、障がい者基幹相談支援センター)
- ③保健・福祉・教育連携機能(療育事業、発達相談、就学相談など)
- ④福祉・災害ボランティア活動支援機能(災害ボランティアセンターなど)
- ⑤教育支援機能(適応指導教室)



産学官連携による健康まちづくり



大学や企業と連携し、住民向けの健康プログラムの提供や健康情報のデータ分析などを行っています。例えば、スマートデバイスを利用して、個々の健康状態のモニタリングや適切なアドバイスの提供を行います。連携を通じて、誰もが心身ともに健康で自分らしく暮らせるまちの実現を目指しています。



歩くことを通した健康づくり



歩数に応じてポイントが貯まり、特典がもらえる「健康ポイント事業」や、皆と一緒に市街地を歩く「まちなかウォーキング」など、楽しみながら健康づくりができます。また、遠賀川や福智山などの自然を感じられる河川敷、レトロな雰囲気のアークード商店街など、歩きたくなる環境がたくさんあります。





産業に

タッチ



Agriculture 農業にタッチ



スマート農業

農業用ハウス内の環境制御やGPSを搭載した農業用機械の導入といった、先端技術を用いて農作業の効率化・省力化を図るスマート農業の取組を支援しています。また、農業者と市内の事業者が連携し、環境制御から自動収穫までを一貫して行うシステムの開発に向けた実証事業も行われています。

地域の農産物を活かした特産品

福岡県6次化商品コンクールで賞を受賞した「ぶどう110」や「あまおうとはちみつのジャム」をはじめ、酒米 山田錦を使った日本酒「純米吟醸MONOGATARI」など、市内で生産される農産物を活用した特産品の開発が進められています。

「ふくのこ」生産量日本一



平成30年度から米粉用米「ふくのこ」が栽培されており、その面積は日本一となっています(令和5年時点)。高アミロース米である「ふくのこ」は麺やパン等への加工適性が高く、α化米粉(炊いた米を製粉したもの)を使うことでグルテンフリーの商品開発も可能となることから注目を集めています。また、近年では市内の事業者による商品開発も進められており、米粉パンケーキミックスやライスエナジーバー、シフォンケーキなど、様々な形で広がりを見せています。



Industry 工業・商業にタッチ

直方鞍手新産業団地造成



筑豊地域における企業誘致の受け皿となる工業用地として、植木地区と鞍手町中山地区にまたがる約23ha(うち企業用地約12ha)を整備します。直方市と鞍手町、福岡県の3者が協力して事業を進め、令和7年度中の完成を目指しています。



樋門の自動化

産学官が連携し、河川管理システムの研究開発に取り組んでいます。大雨による増水時に活用される樋門の遠隔制御と水位・水向センサーで危険な箇所をリアルタイムで状況確認できる通信技術です。



のおがたベース

令和4年11月、中心市街地(古町商店街)に「のおがたベース」を開設しました。直轄地域の事業者の経営相談や創業支援を実施している直轄ビジネス支援センターの相談窓口の他、セミナーの開催やDXの推進拠点として活用しています。



中心市街地活性化(エリアマネジメント)



- ここっちゃん
- 商店街の活性化
- 創業支援

令和5年4月、中心市街地(古町商店街)に、まちなかの賑わい拠点となる多世代交流スペース「ここっちゃん」がオープンしました。地域子育て支援センターや一時託児施設、飲食・物販テナントが入った複合施設で、ワークショップやイベントなども行うなど、賑わいづくりに取り組んでいます。令和5年度には、新たにまちづくりの専門家の意見を聞きながら、直方市の将来ビジョン策定や、創業支援や補助金の拡充、商店街スペースを利用する際の手続きの簡素化など、新しい事業者が商店街に参入しやすい環境づくりに取り組んでいます。





お出かけスポットに ニタッチニ

もととりあじさい園

市が所有する里山を地元市民団体「金剛山もととり保全協議会」が整備運営。山ろくに咲く、色とりどりのあじさいに心奪われます。例年6月中旬から7月上旬にかけて約4,000株のあじさいが見頃を迎え、あじさい祭りが開催されます。期間中は地元の特産品なども販売し、多くの人で賑わいます。



竜王峡

竜王峡キャンプ村の近くには、「竜王の滝」など3つの滝と、きれいな渓流があり、子供たちの絶好の遊び場として親しまれています。直方市街地からのアクセスも良く、澄んだ空気の中で水遊びや、バーベキューなどが気軽に楽しめます。キャンプ村には、バンガローやテントサイト、温水シャワーなどが整備されています。夏には、ヤマメのつかみ取りや竹灯籠祭りも開催されます。



パークゴルフ場

公益社団法人日本パークゴルフ協会公認コースでいろんな世代が楽しめます。



福智山

標高901メートル。福智山系の主峰で、林野庁から「水源の森百選」に選ばれた豊かな森林があり、山頂からの360度の眺望や滝など見どころいっぱい。野鳥の宝庫でバードウォッチングも満喫できます。



福智山ろく花公園

1年を通して四季折々の花が咲き誇ります。5月はネモフィラ、10月にはコスモスが、約1,000㎡の花壇で見頃となります。季節ごとのイベントや各種教室なども開催。自由に遊べる芝生広場やドッグランもあり、ご家族連れで楽しめるおススメスポットです。また、令和5年6月に、ワンヘルスを学び、体験できる施設「ワンヘルス啓発施設」として、福岡県から認定されています。



のおがた夏まつり、直方山笠

約6,000発の花火とナイアガラが夜空を飾り、水面を彩る花火大会は、見ごたえ抜群。打ち上げ場所と観覧席が近く、臨場感たっぷりです。同日、追い山笠も行われ、夏まつりをより一層盛り上げます。



まちなかライトアップ事業(のおがたイルミ)

JR直方駅から須崎町公園のエリアに、16万球のイルミネーションが美しく輝きます。イルミネーションと共にクリスマスマーケットなども開催され、冬の風物詩となっています。

MAKE A MONOGATARI

遠賀川河川敷で行われる有名アーティストによる音楽ライブと9,000発の音楽花火のイベントで、市内外から多くの方が訪れます。これまで4回開催されており、直方の恒例イベントとなっています。



五日市

毎月5日に市内の商店街で開催しています。加盟店の特売セールやここでしか食べることのできない五日市うどんが数量限定で販売され、毎月、大賑わいです。



のおがたチューリップフェア

毎年、4月上旬に開催される直方を代表するイベント。色とりどりの様々な品種のチューリップが遠賀川の河川敷を彩ります。満開の桜や菜の花、遠くに望む福智山と一体となり、直方の春を盛り上げます。期間中は土日を中心に、約30万人の人で賑わいます。



オートキャンプ場

福智山と遠賀川の雄大な景色の中、街なかで気軽にキャンプが楽しめます。オンライン申請での予約が可能です。



サイクリングロード

令和元年11月「直方北九州自転車道」が全線開通しました。飯塚市から伸びる「飯塚直方自転車道」と合わせると全長47.3キロメートルものサイクリングロードとなり、遠賀宗像自転車道にも繋がっています。車の危険を感じず安全に、自然を満喫しながら、サイクリングを楽しむことができます。





歴史・文化に ニタッチニ

高取焼発祥の地 古高取



古高取(高取焼)は1600年代の初め頃、豊臣秀吉による朝鮮出兵の際に連れ帰られた陶工によって、直方で始まった焼き物です。永満寺宅間の地で発祥し、1614年には頓野内ヶ磯窯跡へ移りました。当時最大級の規模と最先端技術で製作された茶器は、瀬戸焼や唐津焼とともに多くの茶人や武士に好まれました。

国指定史跡 筑豊炭田遺跡群

旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所 及び救護練習所模擬坑道

明治期以降、日本の近代化を支えた石炭を多く産出し、筑豊炭田の中心地のひとつであった直方の歴史を知ることのできる文化財です。本館は明治43年に当時の筑豊石炭鉱業組合が直方会議所として建設したもので、東アジア最古の本格的な救護練習施設である救護練習所模擬坑道とともに、国の史跡に指定されています。現在、未来への保存と活用のための整備事業を進めています。また、石炭記念館の入口に設置された坑夫の像は、令和3年に遠賀川河川敷公園から移設されました。



直方のはじまり 東蓮寺藩誕生400年

江戸時代前半(1623年から1720年)、直方は城下町でした。福岡藩初代藩主 黒田長政の四男高政が東蓮寺藩初代藩主となり、三代藩主長寛の時、直方藩と改名しました。四代藩主長清の子が福岡藩を継いだため、約100年の歴史に幕を閉じました。2023年には、東蓮寺藩誕生400年を記念して、兄弟藩である秋月藩(朝倉市)とともに様々なイベントを実施しました。



直方谷尾美術館

平成13年4月から市美術館として活用されている建物で、昭和15年に建設されたものです。半円形の応接室、独立柱を持つ玄関など、昭和初期のモダンな医院建築です。



直方名菓 成金饅頭

石炭産業明治の末、直方で日露戦争戦争に乗じた豆の投機に失敗した人が、余った大量のうずら豆の処分に困り、餡をたくさん使った饅頭にして売ったのが「成金饅頭」の始まりと言われています。直方の炭鉱王・貝島太助もお気に入りだったという豪快な饅頭。最大のもは直径29cm、重さ約3kg。



せんべい

全国のお店や通販でおなじみの「もち吉」。創業90年以上の会社が作るおせんべいは職人技が生み出す一枚。



自慢の品に ニタッチニ



直方B級グルメ焼きスパ

商店街の喫茶店で学生の味として愛された青春の味。閉店後、幻の味となっていたが、直方B級グルメ募集で、多数の声が寄せられ、復活。公式認定を受けた市内の複数飲食店で提供しています。



いちご

「あかい、まるい、おおい、うまい」でお馴染みのいちご、あまおうの栽培が盛んに行われています。直方は生産者一軒あたりの栽培面積が県内随一で、安定して品質の高いいちごが生産されています。

カレー焼き

直方で60年以上続く市民のソウルフード。昔ながらのもっちり生地の中にはこだわりの野菜を長時間も煮込んで、最大限に甘みを引き出したカレーが詰まっています。





直方市のあゆみに ニタッチニ



- 1926年(大正15年)
 - 11月 直方町、福地村、下境村、頓野村、新入村の1町4村が合併、新直方町が誕生
- 1931年(昭和6年)
 - 1月 市制施行/第1回市議会議員選挙
- 1933年(昭和8年)
 - 4月 直方商工会議所の設立に認可
- 1935年(昭和10年)
 - 6月 遠賀川大洪水
- 1937年(昭和12年)
 - 1月 天神橋(鉄筋コンクリート)が完成
- 1941年(昭和16年)
 - 6月 遠賀川大洪水
- 1947年(昭和22年)
 - 9月 直方市消防団を結成
- 1948年(昭和23年)
 - 3月 直方市消防署を設置
- 1949年(昭和24年)
 - 5月 昭和天皇が、直方北小学校、筑豊鉱山学校、技術試験場などを視察される
- 1950年(昭和25年)
 - 11月 直方市社会福祉協議会創立
- 1951年(昭和26年)
 - 5月 竜王峡キャンプ村がはじまる
- 1953年(昭和28年)
 - 6月 遠賀川大洪水
- 1955年(昭和30年)
 - 3月 植木町を編入
 - 5月 直方青年会議所が発足
- 1958年(昭和33年)
 - 8月 小竹町赤地の一部を編入
 - 10月 「直方日若踊」が県の無形文化財に、「建武の板碑」「梵字曼陀羅碑」が県の有形文化財に指定される
- 1959年(昭和34年)
 - 4月 「五日市」がはじまる
 - 9月 筑豊電鉄が木屋瀬～直方間開通
 - 10月 御館橋が完成
- 1961年(昭和36年)
 - 4月 「植木三申踊り」が県の無形文化財に指定
- 1962年(昭和37年)
 - 4月 「工場誘致条例」を施行
- 1964年(昭和39年)
 - 9月 東京オリンピックの聖火リレーが通る/直方鉄工青年会が発足
 - 10月 誘致企業第1号、大石産業の建設はじまる
- 1965年(昭和40年)
 - 4月 日の出大橋が完成
- 1966年(昭和41年)
 - 3月 暴力追放都市を宣言
- 1967年(昭和42年)
 - 10月 明神池工場団地が完成/中泉工場団地の第2期造成工事が完成
- 1968年(昭和43年)
 - 5月 篠栗線開通、直方～博多間が1時間20分となる
- 1969年(昭和44年)
 - 1月 永満寺工業団地が完成
- 1970年(昭和45年)
 - 4月 遠賀川サイクリング専用道路が開通(直方～飯塚)
- 1972年(昭和47年)
 - 10月 福智山系一帯が北九州国定公園に指定される
- 1973年(昭和48年)
 - 1月 直方工業団地が完成
- 1975年(昭和50年)
 - 4月 市の木は「泰山木」に、市の花「水仙」と「カンナ」に決定
- 1977年(昭和52年)
 - 4月 市内41地区ステーション方式によるゴミの週2回収集を開始
- 1979年(昭和54年)
 - 6月 集中豪雨で大きな被害
 - 9月 古高取焼内ヶ磯発掘調査を開始



御巡幸記念写真



直方日若踊

梵字曼陀羅碑



植木三申踊り



内ヶ磯発掘

- 1980年(昭和55年)
 - 1月 須崎神社の飛び石「世界最古のいん石」か、とマスコミをにぎわす
- 1981年(昭和56年)
 - 10月 市民憲章を制定
市政施行50周年を祝う
- 1983年(昭和58年)
 - 8月 東助六橋が完成
- 1985年(昭和60年)
 - 5月 中小企業大学校直方校が開校
- 1986年(昭和61年)
 - 7月 鷹取城跡発掘調査を開始
- 1989年(平成元年)
 - 10月 平成筑豊鉄道が開業、直方駅開業
 - 12月 「情報公開条例」を制定
- 1991年(平成3年)
 - 4月 直方市シルバー人材センター発足
- 1996年(平成8年)
 - 3月 直方市花の都市宣言/福智山ろく花公園がオープン
 - 4月 水町遺跡を直方市史跡に指定/直方市自治区長連合会が発足
- 1997年(平成9年)
 - 4月 のおがたチューリップフェスタがはじまる
 - 6月 「直方市個人情報保護条例」施行
- 1998年(平成10年)
 - 2月 ゴミの有料指定袋制を実施
- 1999年(平成11年)
 - 3月 植木桜つつみ公園がオープン
 - 4月 水町遺跡公園がオープン/直方歳時館がオープン
 - 7月 のおがた夏まつりが開始
- 2000年(平成12年)
 - 5月 大関魁皇間が初優勝
- 2001年(平成13年)
 - 4月 直方谷尾美術館がオープン
 - 7月 新図書館がオープン
 - 10月 JR九州福北ゆたか線の電化開業
- 2002年(平成14年)
 - 4月 ADOX福岡(直鞍産業振興センター)がオープン
- 2003年(平成15年)
 - 2月 ゆたか橋が開通
 - 3月 菜の花大橋が開通
- 2004年(平成16年)
 - 2月 福智山ダムが完成
- 2006年(平成18年)
 - 10月 植木桜つつみ公園パークゴルフ場オープン
- 2008年(平成20年)
 - 7月 パブリックコメント制度開始
- 2009年(平成21年)
 - 7月 「直方市暴力団等追放推進条例」施行
- 2010年(平成22年)
 - 7月 上頓野産業団地分譲開始
 - 11月 「直方焼きスバ」を地域のB級グルメに認定
- 2011年(平成23年)
 - 4月 新直方駅舎が移転新築
- 2013年(平成25年)
 - 3月 十一観音像(下新入) 県有形指定文化財に指定
 - 12月 殿町古町の建造物8棟が登録有形文化財に登録
- 2014年(平成26年)
 - 1月 直方市観光物産協会設立
 - 10月 大関魁皇像 JR直方駅前に建立
- 2018年(平成30年)
 - 10月 筑豊石炭鉱業組合直方会議所(現石炭記念館)及び救護練習所模擬坑道が国指定史跡に
- 2019年(令和元年)
 - 9月 地方版IoT推進ラボに選定
 - 11月 直方北九州自転車道開通
 - 12月 九州大学と連携協定締結「新国富指標」を活かしたまちづくり
- 2020年(令和2年)
 - 6月 直方駅前公園完成
 - 7月 筑豊文庫資料室完成
 - 7月 日本郵便株式会社との包括連携協定
 - 8月 大塚製薬との包括連携協定
- 2021年(令和3年)
 - 1月 明治安田生命相互株式会社と包括連携に関する協定を締結
 - 7月 アドバンテックテクノロジー株式会社との遠隔監視制御型植門管理システムの共同研究開発に関する協定書
 - 10月 ワンヘルス推進宣言
 - 12月 ZVCJapan株式会社とデジタルトランスフォーメーション推進に向けた連携協定締結
- 2022年(令和4年)
 - 2月 ゼロカーボンシティ宣言
 - 4月 脱炭素先行地域に選定
 - 5月 SDGs未来都市に選定
 - 8月 市内全中学校で選択方式から全員給食に
 - 11月 のおがたベースがオープン
- 2023年(令和5年)
 - 4月 多世代交流スペースここっちゃんがオープン
 - 5月 「ノーコード宣言シティ」宣言 ～自治体第1号に認定～
 - 6月 「福智山ろく花公園」を福岡県ワンヘルス啓発施設第3号に認定



のおがたチューリップフェスタ



上頓野産業団地



JR直方駅前広場



大関魁皇像



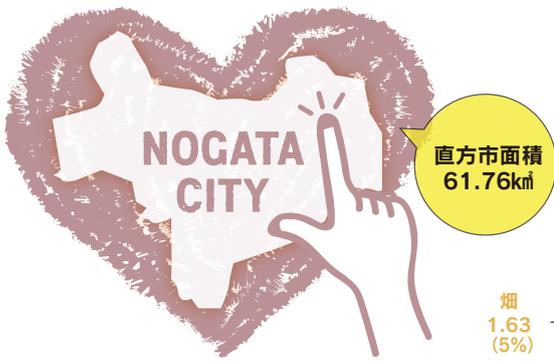
「新国富指標」を活用したまちづくりに関する連携協定締結式



直方駅前公園

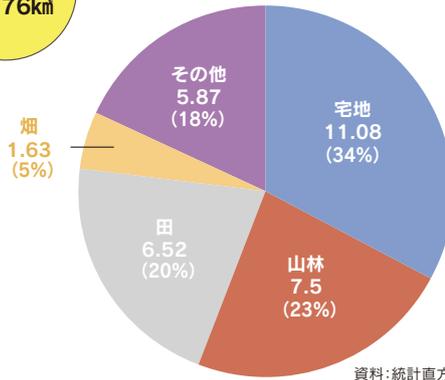


市内全中学校で選択方式から全員給食



Dataに タッチ

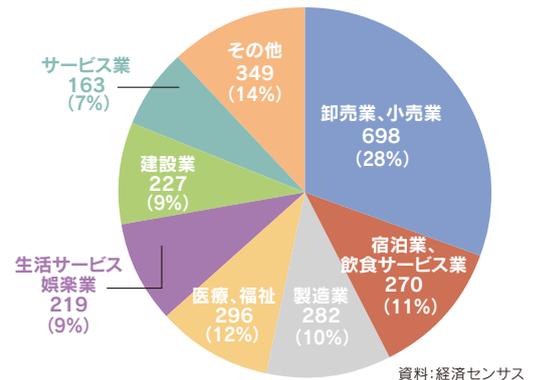
民有地面積の割合 (2022年1月1日現在)



総面積
32.6km²

資料: 統計直方

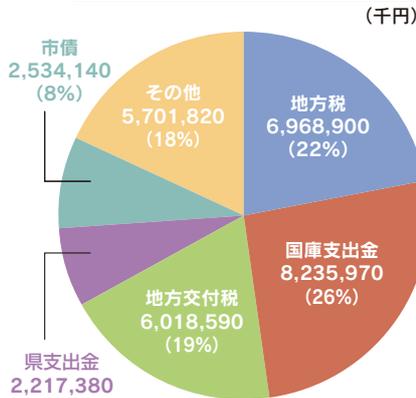
産業別事業所数 (2021年、民営)



合計事業所数
2,504所

資料: 経済センサス

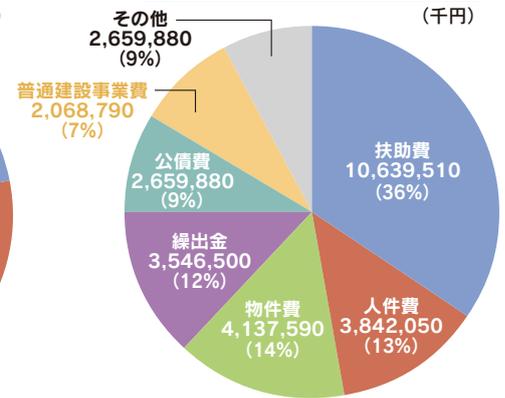
一般会計財源別歳入 決算額の内訳 (2021年度)



歳入総額
316億7,680万円

(千円)

一般会計性質別歳出 決算額の内訳 (2021年度)



歳出総額
295億5,420万円

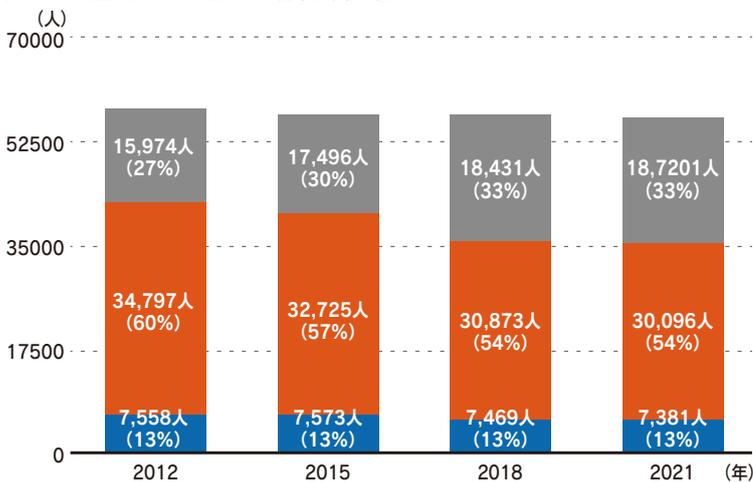
(千円)



《財政指標》

年度	標準財政規模	経常収支比率	財政力指数 (単年度)	財政力指数 (3年平均)	実質公債費比率	財政調整基金 (一般会計)	地方債現在高 (一般会計)
2022	13,560,395千円	90.60%	0.55	0.556	6.4%	4,635,926千円	23,952,026千円

《年齢3区分人口推移》 各年3月末現在



■ 15歳未満 ■ 15歳以上65歳未満 ■ 65歳以上
※住民基本台帳に基づく。2013年以降は外国人も含む。

《人口・世帯》

2024年1月末日現在

人口	55,121人
世帯数	27,644世帯



市勢要覧2024
デジタル版はこちらから



焼きスパマン

焼きスパを広めるために生まれた、ご当地グルメキャラクター。



ふるさと納税の紹介



ふるさと納税によって全国各地からいただいた寄附金は、直方市の様々な事業に有効に活用しています。

- 移住・定住・若年層の市内定着に向けた支援制度
- 子育て……幼児教育のための絵本配布事業、プログラミング教室、産後ケア、アントレプレナーシップ教室など
- 工業・商業・中心市街地活性化、のおがたベース(事業者支援)
- 観光……チューリップフェア、まちなかライトアップ事業など

ふるさと納税は
コチラから



四季折々の豊かな自然に癒され、おいしいグルメで満たされ、のんびり、まったりと過ごすことができる直方市で「ココロミチル」体験を。

観光ガイドブック

「グルメ」「カフェ」「テイクアウト」「アウトドア」など、直方市の魅力あふれる観光情報を35ページにギュギュッと詰め込んでいます。使いやすく、伝わりやすいパンフレットにリニューアルし、今回初めて電子パンフレットも作成しました。いつでもどこでもだれとでも閲覧できる直方市観光ガイドブックです♪

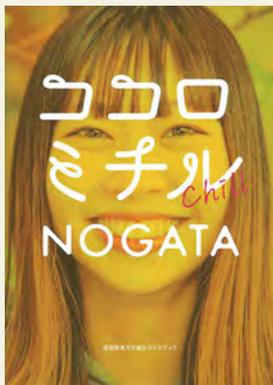


観光PR動画

「花」をテーマに、「のおがたの魅力」をふんだんにまとめた市民参加型の観光PR動画が完成しました。花の綺麗さはもちろんのこと、地元の方の温かさが伝わるような動画です♪



コチラでご覧いただけます



観光ポータルサイト

自然・歴史・文化・食など、「のおがたの魅力」を分かりやすく紹介しています。観光協会のInstagramと連携しており、常にトップページに旬の情報が表示されるので、直方の楽しい・美味しい「旬」な情報を発信します♪



コチラでご覧いただけます

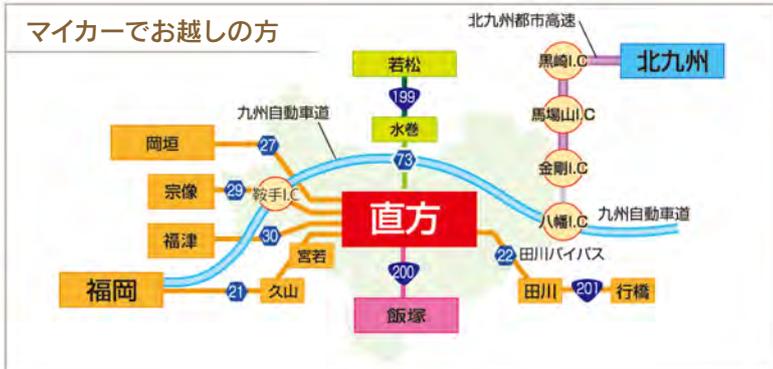


コチラでご覧いただけます

鉄道アクセス



マイカーでお越しの方



交通アクセス

【電車】●JR博多駅から約1時間 ●JR小倉駅から約50分

【車】●八幡・馬場山インターから約15分

●鞍手インターから車で約13分

【高速バス】●天神・福岡空港から約1時間

【飛行機】●福岡空港から車で約60分

●北九州空港から車で約30分(九州自動車道経由)